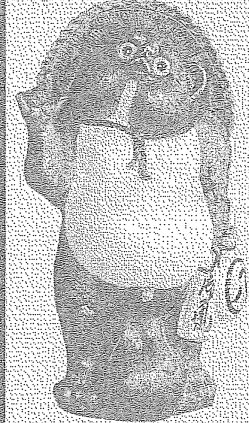


滋賀県立

聴覚障害者センター

だより

第35号



発行日/平成17年1月30日  
 発行所/草津市大路2丁目11-33  
 TEL 077-561-6111  
 077-561-6133  
 FAX 077-561-6112  
 077-565-6101  
 E-mail: shigajou@eos.ocn.ne.jp

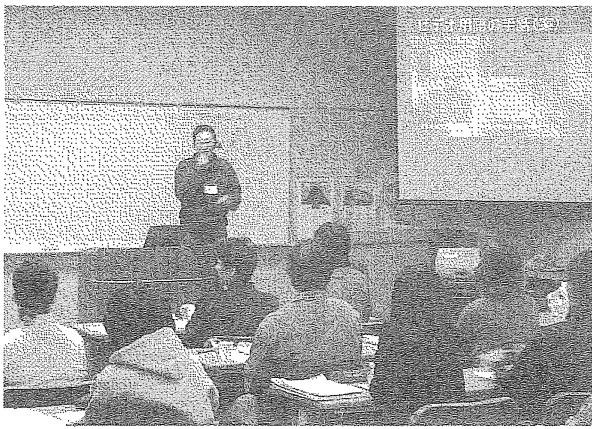
聴覚障害者向けソフト制作担当職員研修会

「ビデオ」から「ソフト」制作へ

平成16年11月24日(水)〜26日(金)当センターに於いて、平成16年度全国聴覚障害者情報提供施設協議会聴覚障害者向けソフト制作担当職員研修会が行われました。

この研修会は毎年、聴覚障害者情報提供施設において聴覚障害者向けビデオ制作を担当する職員を対象に、ビデオ制作技術の研修を行い、聴覚障害者の情報充実と文化的な向上を図ることを目的として行われてきました。しかし、IT社会の進展と共に、聴覚障害者向け映像制作もテープから、DVDやパソコンを使った、いわゆるノンリニア編集にシフトしてきており、今回の研修は、今後展開を予定している情報ネットワークを視野に入れながら、協議会加盟施設の映像制作力のアッ

プを図ることを目的に、研修会の名称も「聴覚障害者向けソフト制作」と変わり、新たな研修会として、今年度当



ビデオ用語の手話研究発表

センターで開催されました。

参加者は31名。3日間をとおして初心者・経験者の関係なく、お互いに情報交換しあいながら職員同士の交流も深まった研修会になりました。

1日目の報告事項では、「情報提供施設のあり方検討会」中間報告について、これまでのビデオカセットライブラリーを中心とした制作・利用システムを新たに「聴覚障害者情報ネットワーク事業」として、放送・インターネットなどITを活用した制作・利用システムを構築することを考えなければならぬと報告があり、併せてビデオ制作担当者もこれまでのビデオ制作のみならず、IT技術を活用した情報提供が大切であると考えさせられました。

こうした変化に伴って、今回の研修会も初心者に対しては、撮影や編集の基礎を押さえながら、これまでのカセットテープを使った「リニア編集」から、パソコンなどのコンピュータ上で編集を行う、「ノンリニア編集」の学習を中心にすすめられ、実技ではパソコンがあれば使える一般的な編集ソフトから専用の機器を必要とするハイエンドなものまで用意され、様々なタイプのソフトや機器を実際にさわって編集を行いながら、ノンリニア編集の基本を学びました。

そして、今回の研修会では昨年、日本各地を襲った風水害、新潟中越地震などの緊急災害時における情報提供のあり方について、被災した現場からの報告や、支援に関わった方々からの活



ノンリニア編集 (実技)

動等の報告から様々な課題が提起され、緊急災害時における情報提供施設としての役割を改めて考えさせられる内容でした。

最後には聴覚障害を持つビデオ制作担当者の集まり「デフV」のメンバーから今回の研修会に向けてそれぞれが考えたビデオ用語の手話研究発表もあり内容も充実した研修会となりました。また、参加者の中には、DVDに関する関心も高く、今回の研修会の中でも、DVD制作の取り組みや、実際にDVDで制作した教材を使って発表や説明を行ったプログラムもあり、DVDの利点も実感できたと同時に今後はDVD制作も視野に入れて行かなければならないと感じました。来年度は京都の手話研修センターで「DVD」や「IT」に関する研修会を行う予定です。

# 第8回聴覚障害者の社会的自立を考えるセミナー

聴覚障害者福祉をとりまく社会福祉の激動、三位一体改革による影響など福祉後退・利用者負担増になりかねないという厳しい情勢のなか、守山市の平安女学院大学で11月7日午後、「第8回聴覚障害者の社会的自立を考えるセミナー」(主催/社会福祉法人滋賀県聴覚障害者福祉協会、協賛/財団法人郵政互助会)が開かれました。

今回のハイライトは、花田克彦氏の講演とパネルディスカッション。花田氏は東京で初めて建てられた、ろう重複障害者就労施設「たましろの郷」所長として活躍されている聴覚障害者。氏は「手話との出逢いから『たましろの郷』へ」と題して話され、ろう重複障害者の出逢いから施設づくり運動、そして苦勞・失敗談などを交えての花田節ぶりでした。福祉の流れを見据えながら「施設福祉」「居宅福祉」の方向付けをもってほしいと強く訴えられました。



(講演：花田克彦氏)



(パネルディスカッション)

## 聴覚障害者関係団体長会議を開催

十二月十八日(土)センターにおいて、拡大団体長会議および各団体役員対象の学習会が開催されました。法人理事と評議員を含め、約四十五名の参加がありました。団体長会議では、「びわこみみの里」づくりの経過報告と各団体の意見交換が行なわれました。

学習会では、講師に知的障害者通所授産施設「わたむきの里」施設長の盛井彰司氏を迎え、「障害者施設整備に関わる国の動向」みみの里をとりまく福祉情勢」と題して三時間に渡り熱くお話しされました。

国の三位一体改革による影響やグラウンドデザイン案の策定により、今後新たな施設整備は非常に厳しくなります。

## 新潟県中越地震に対する支援

昨年10月23日に新潟県中越地方を震源として発生した新潟県中越地震。地元新潟では聴覚障害者関係団体を中心に新潟県聴覚障害者地震対策本部を立ち上げ支援活動を行っています。

当センターが所属する全国情報提供施設協議会では、この事態を受けて4つの支援方針(①支援対策本部の設置 ②支援活動の実施 ③ホームページによる会員施設への情報提供 ④地元からの要請に対応する)を打ち出し、その中でCS障害者放送統一機構の緊急放送体制に係る手話通訳等の支援を

また、利用者の自己負担増など深刻な問題を抱え、施設運営の難しさなど施設長としてのご自身の体験を交えて話されました。

参加者からは、施設職員の給与や国の示す施設整備の今後の方向性についてなど、積極的に意見や質問がありました。「私たちは、みみの里建設に向けてどのような方向で運動を進めていくべきか」の質問には、「聴覚障害者対応の施設の必要性をどうアピールするか。全県対象の施設なら市町村への積極的な働きかけが必要。地元の理解と基盤となる地域づくりが大切」とのアドバイスを頂きました。

国や県の情勢を迅速に見据えながら、各団体が確実に情報を共有し聴覚障害者のニーズに答えられるよう運動につなげていくことを全員で確認しました。

## 位置づけました。

CS障害者放送統一機構は、聴覚障害者用情報受信装置「アイ・ドラゴンII」で視聴できる「目で聴くテレビ」を製作。被災地では「アイ・ドラゴンII」が給付された聴覚障害者の家庭や聴覚障害者が多く避難する避難所などに設置し、震災直後から11月末まで震災地のライフラインの復旧状況や「り災証明書」などの手続きに関する情報が提供されました。

当センターからもこのうち2回に職員を派遣し協力しました。

手話通訳者養成講座

9月から全24講座、毎週月曜日夜19時から開講しています。8月末に面接試験を行い、現在17名が受講しています。手話通訳者を目指して、学習しています。

手話入門講座

11月10日から全15講座、毎週水曜日の午後開講しています。サークルで知り、センターへの問い合わせやホームページで知り、申し込まれた方も多くの応募をいただきました。

開講初日の講義では、「聴覚障害の基礎知識」について学び、「聴覚障害には種類があり、聞こえにも個人差があることがわかった」「聴覚障害について知る大切さを知った」等の感想がありました。

実技では、講師の手話と板書の文字で学習が進められ、グループ学習では、お互いに協力し合い、発表にも積極的に参加しています。

滋賀県手話通訳者登録試験

滋賀県では、平成14年度から本試験に、(社福)全国手話研修センターが実施する「手話通訳者登録試験」を導入し、手話通訳者の認定基準の均一化や地域格差の是正にむけた取り組みを始めました。

16年度の試験には、20人が「筆記・手話の要約・場面通訳」の試験を受験しました。

要約筆記養成講座

今年度の要約筆記養成講座は、合併の進んだ甲賀市の会場を中心として実施してきました。六月二六日に開講した基礎課程から、現在、応用課程に進み、実際の会議の場で、今まで習得された技術をフルに活用して、実践力が試される現場実習の時期を迎えています。基礎課程 三二時間、応用課程二〇時間という長丁場ですので、仕事の関係、家庭事情などで、継続がかなわ

各種講座近況

なかった受講者も何人かはありますが、手書きクラスは、十三人、パソコンクラスは八人の方々が、要約筆記者となる寸前の勉強に励んでいます。

一分間、三〇〇字以上の速さで話される会話を、聞きながら、一分間に書ける文字量に要約して書き続けることの難しさを実感されています。

また、パソコン要約筆記は、多数の聴衆が集まる講演会やシンポジウムで目に見える機会も増えてきましたが、まだまだ、担い手が少なく、養成を担当する立場からも責任の重さを感じま



盲ろう者を介助しながら調理

す。いづれも、補聴器を付けていても大勢の集まる場では、一般的な拡声マイクでは、話されている言葉が聞き取れない人には、欠かせない文字による通訳です。そのような難聴者がおられる限り、活躍の場は広がるものと思われれます。二月六日の修了式を前に、現場実習の場を有効に利用し、要約筆記者としてのセンスを身につけて修了していただきたいと思います。

盲ろう者通訳・介助者養成講座

盲ろう者の移動の自由とコミュニケーション保障の為に

盲ろう者の社会参加と自立を推進することを目的とし、「盲ろう者通訳・介助者養成講座」をしが盲ろう者友の会の協力を得て7月から11月にかけて実施しました。今年で3年目になり、29名が修了証を手にする事ができました。

講座の中では、盲ろう者の障害を理解することや盲ろう者の利用できる社会資源があるかどうかを考えました。また、実際に盲ろう者を介助しながら調理をしたり、食事をしたり、ゲームを楽しんだりして、交流の中でコミュニケーションの仕方を学んでいきました。

受講生からは、「多くの人に福祉について考えて欲しい。盲ろう者が住み慣れた地域で安心して暮らせるような施設や福祉が充実してほしい。」との感想が寄せられました。

修了者は、来年度より盲ろう者通訳・介助者として県に登録し、盲ろう者の外出やコミュニケーション支援の為に活動する予定です。

※盲ろう者とは視覚と聴覚の両方に障害のある人



介助実習の様子

# 障害者ITサポートセンター事業

IT講習会が開催されました

平成16年12月13日(月)、15日(水)、17日(金)の3日間に、IT講習会(パソコンで年賀状をつくらう)が行われました。1回2時間で完結するカリキュラムを組みましたが、参加人数は13日が2名、15日、17日はそれぞれ1名ずつの個別講習となりました。

受講された4名のみなさんは、常日頃からパソコンを使っておられる方々でしたが、私の説明にうなずきながらメモを取ってくださったり、熱心に耳を傾けてくださったりと、短い時間の中でとても意欲的に取り組んでいただきました。講習の内容だけでなく、普段疑問に思っているパソコン用語や操作方法を一つ一つ解決しようと頑張っておられ、表情豊かなみなさんの顔には、パソコンという世界への興味が非常に強いものだと感じました。

今回のIT講習会は、私自身学ぶことが多いものでした。この講習会に参加してくださった方は、今回勉強したことをしっかり自分のものにして、さらに次の段階へ進み常に自分のスキルを高めていこうと努力する前向きな姿勢が見られる方たちばかりでした。新しいことにチャレンジする前向きな姿勢は、とても素晴らしいと思いました。私も前向きな気持ちを忘れず、その姿勢を見習っていききたい。

参加者の声

聴覚障害者センターでIT講座を開いていることを、福祉事務所にて初めて知り、早速申し込みました。今まで一般のパソコン教室に入ろうと思ったこともありましたが、コミュニケーションの関係で難しく、断られて諦めていました。

このIT講習会に参加してみたら、わかりやすく、先生の指導も手話・筆談を交えて教えていただいた事がとても嬉しく思います。

今後もうこういう講習会を続けてくだされば、ありがたいと思っています。

S・H

## 最近の福祉機器事情

昨年10月上旬に東京・市ヶ谷で開かれた「聞こえの商店街」というコミュニケーション・機器・サービス展示会場で、収集した聴覚障害者に対応した機器・サービスをご紹介します。

まず、最近の機器で、目立つのは、テレビ電話の発展です。

①IPテレビ電話同士なら、月額でテレビ電話とFAXが使い放題。ハンズフリーで会話ができ、手話や筆談もOK。会話の内容が録画できるので、手話(映像)での留守番電話の応答メッセージが作れる。留守電の手話メッセージが残せるというもの。

②携帯メールやパソコンメールアドレスを持っていない場合には、手書きの書面を指定されたFAX番号に送ると約15秒以内で、相手の携帯電話に送ることができるサービス。相手の携帯電話も登録しておく必要があります。

③聴覚障害者用機器が無料で、借りられる賃貸マンション会社があります。(一泊も可)。但し予約は三日前までに。貸出可能な機器は屋内信号装置、受信はストロボ。文字放送チューナー付のテレビ。屋内信号装置に連動したハイプレーターの目覚まし時計と火災報知器。簡易筆談器。

④全国十三カ所の宿泊施設でも平成16年10月下旬から聴覚障害者向けの情報機器貸出サービスを導入

⑤パソコンで作成したメッセージを配信する表示機。コマーシャル、病院内での案内、建物内での案内表示に利用

詳しくは、センターだより編集担当にお問い合わせ下さい。

## お知らせ

障害者ITサポートセンター事業は引き続いて3月まで行います。担当は安井悠子さんです。

## センターだより

あけましておめでとうございます。

昨年は日本漢字能力検定協会が公募した「今年の漢字」で「災」が最多票を獲得しました。漢字に象徴されるように、台風や水害、地震の災害が日本列島をかけめぐりました。

また、天災だけでなく、イラク戦争や凶悪事件などの人災、深刻な事件が相次いだ児童虐待も人災ではないでしょうか。

一方、国の動きも活発化しています。私たちの暮らしの根底が、くつがえされる大地震が起こるかもしれない(起こりつつあるかも)

「災い転じて福となす」今年こそは、元気で・明るく・楽しく・笑顔で過ごせるよう力を合わせて、福をいっぱいかき集めましょう。

本年もよろしく願い申し上げます。(C・K)